

福德岡ノ場の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

福德岡ノ場では、活発な噴火活動が継続しています。福德岡ノ場の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やベースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。また、噴火による浮遊物（軽石等）にも注意が必要です。

<本日（16日）14時00分に噴火警報（周辺海域）を切替>

○ 活動概況

海上保安庁が昨日（15日）実施した上空からの観測によると、8月13日から海底噴火が始まった福德岡ノ場では依然として活発な噴火活動が続いており（図1、2）、直径約1kmの馬蹄型の新島が確認されました。また、海面に噴火による浮遊物（軽石等）が蛇行しながら北西方向に約60kmまで流れていることが確認されました（図2）。

気象衛星ひまわりの観測によると、噴煙の最大の高さは13日09時頃から15日03時頃までの約16,000mでした。その後、噴煙の高さは低下していますが、現在も断続的に活発な噴火活動が継続していると考えられます。



図1 福德岡ノ場の状況
馬蹄型の新島から噴煙があがっていることが確認されました。



図2-1 福徳岡ノ場の状況
直径約1kmの馬蹄型の新島が確認されました。



図2-2 福徳岡ノ場の状況
海面に噴火による浮遊物（軽石等）が蛇行しながら北西方向に約60kmまで流れていることが確認されました。



図2-3 福徳岡ノ場の状況
依然として活発な噴火活動が続いていることが確認されました。

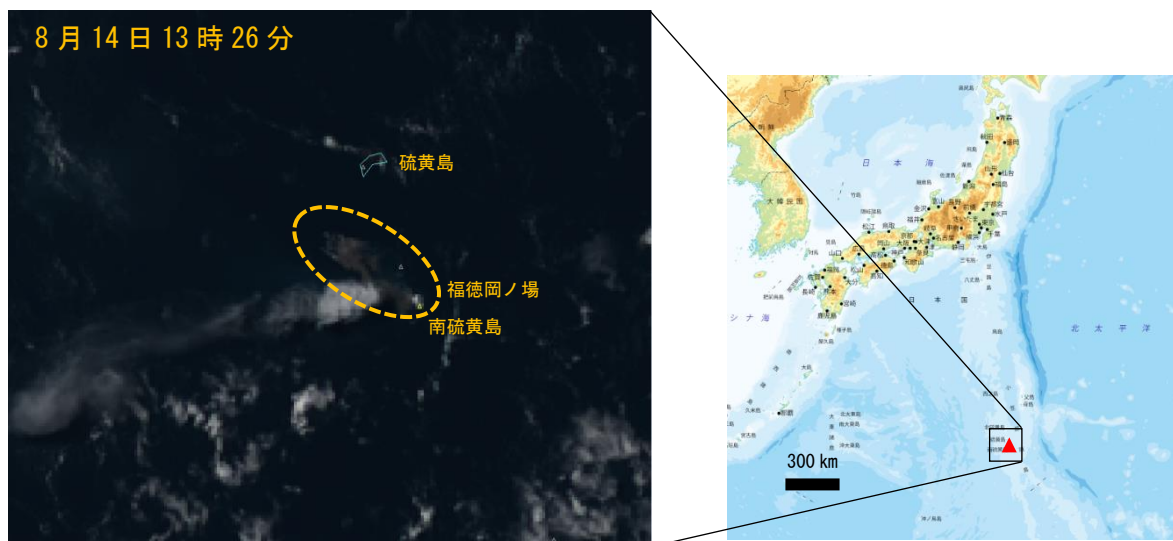


図3 気象衛星ひまわりの画像（8月14日）
噴火による浮遊物（軽石等）と推定される領域が福徳岡ノ場の北西方向に確認されました。

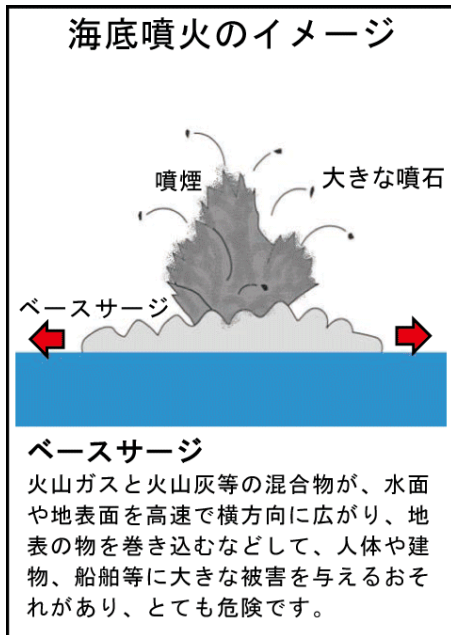


図4 海底噴火による影響のイメージ

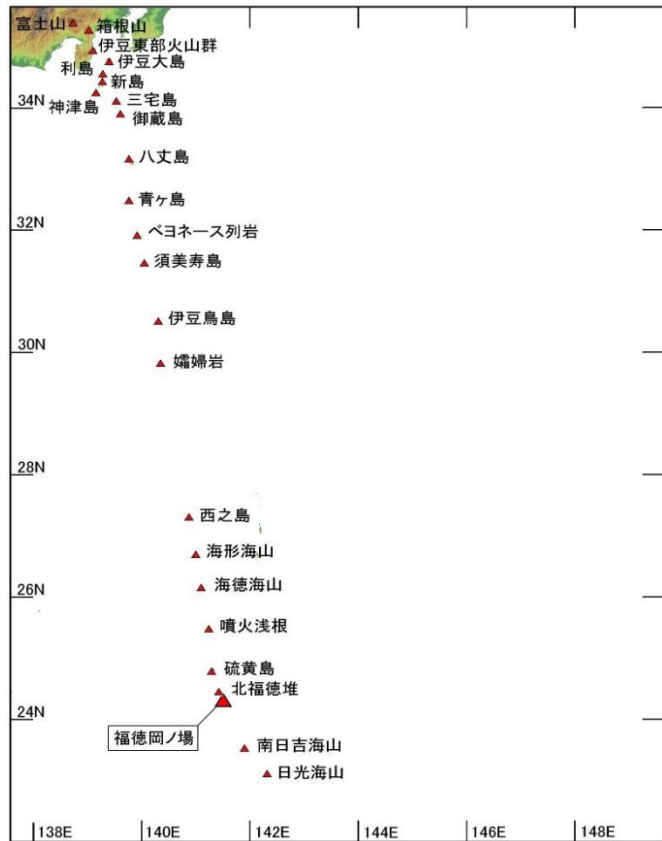


図5 伊豆・小笠原諸島の活火山分布と福德岡ノ場の位置図
地図は、日本活火山総覧（第4版）から引用。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、気象庁のほか、海上保安庁のデータを利用して作成しています。資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。